

グローバル探究 I (1 年) の取組

「台湾リサーチ」9月26日(火)～30日(土)

9月の最終週、1年生11名が4泊5日の「台湾リサーチ」に参加。

大使館の役割を果たす日本台湾交流協会を訪ね、日本との関係や現地の状況を学び、高校・大学の訪問では同世代へ食に関するインタビューを実施。延平高級中学校には今年もホームステイを受け入れていただき、同世代の台湾の一般家庭の生活や食についてのリサーチや交流を更に深めることができた。現地企業は台湾カゴメを訪問。(以下は生徒の報告書より抜粋)



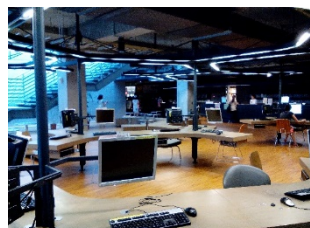
延平高級中学の最寄駅から台北 101

【リサーチ活動 1 日目】

(1) 実践大学 (じっせんだいがく)

宋先生のガイドのもと実践大学を案内してもらいました。最初は緊張しましたが、学生さんたちもやわらかい雰囲気の中で日本語で話しかけてくれたりと素敵な人たちばかりだと思いました。

5つの学部はバラエティに富んでいて大学内も自由な雰囲気に包まれていました。食品の学科は大学のカフェで働けて、音楽学科はホールで演奏会を開くことができたり、1人1人の学生が自分の能力を人に知ってもらえるところがあってそれを実践できることができていい大学だなと思いました。学校内の設計も賞をとるくらいきれいで、図書館も整備されていて調べ物は最適だろうし、館内は学習スペースが多く設けられ学生たちが静かに過ごしていたので勉強にも打ち込めそうだなと思いました。



【リサーチ活動 2 日目】

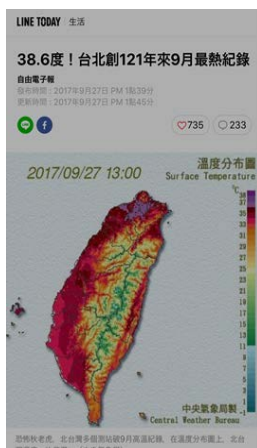
(2) (公財) 日本台湾交流協会

9月の台北観測史上最高温を記録した2日目は、日本台湾交流協会台北事務所を訪問しました。ここでは台湾の人々の対日意識についてお話を伺いました。台湾の人々にとって日本は親しみが深く、日本の商品への信頼度も高いと聞いて個人的にはとてもうれしかったです。

台湾の人々がそうやって日本にいい印象を持ってくれるのは昔、日本人技師達がダム建設やお米の改良などに貢献し日本の技術をもって台湾の発展を支えてきたことも影響しているのです。台湾は中国の一部であって国ではないため条約も結べないことを初めて知りました。その分、民間ベースで交流を保ち、昔からの重要なパートナーであり古き友人であるという認識を大切にしてこれからの関係を継続していくために私たちの世代が大切にしていかなければならないと思いました。



(セキュリティ強化のため、内部での写真撮影は禁止)



(3) 九份 (きゅうふん)

「生徒の自主研修「九份」視察。地下鉄、高速バスを乗り継いで現地へ。

観光地はたくさんの方々が来るので自分たちの文化を残しつつ、その人たちが観光しやすい環境をつくっていた。高知ももっとほかの国の言葉を少しでも、下手でもいいので喋れる人が多いと外国人観光客が観光しやすくなると思った。また、喋ることが出来なくても飲食店のメニューに外国語を入れるなど工夫をすればいいと思う。」



【リサーチ活動 3 日目】

(3) 台湾カゴメ (4) 台南市視察

地下鉄、台湾高速鉄道(新幹線)、貸切バスを乗り継いで台湾カゴメへ。台湾カゴメでは、日本人と台湾人の味覚の違いについて学びました。日本と台湾のケチャップで唯一違う点は、糖酸比です。糖酸比とは、甘さを比べたもので、日本は 24.3、台湾は 25.6 であり、台湾カゴメでは、台湾人の好みに合ったケチャップと作っていると聞きました。また、台湾カゴメでは、台湾で商品を生産し、人々の健康維持を目指しており、台湾人も健康に気をつけている人が多いそうです。実際に台湾のお弁当を食べてみると、全体的に薄味で、野菜が多く、ヘルシーでした。本当に台湾の人は健康に気を使っていることが伝わってきました。



(その後、昼食をご馳走になり、午後は台湾カゴメのお世話で台南市内を案内していただいた。「赤嵌楼 (せきかんろう)」を見学した後、生徒は台南の果物や食べ物をリサーチ。)

【リサーチ活動 4・5 日目】

(5) 延平高級中學

ここで学んだことは、台湾の学生がどのような学校生活を送っているのかです。そこで知って驚いたことは、台湾の学生は常に勉強しているということです。私が小さな頃はずっと遊んでいましたが、彼らはとても小さいころから英会話塾などの塾に通っていました。そのため、二か国語以上話せるのが当たり前です。台湾の子どもの中には、自分が台湾人ではなく、英語を話す国の人と思っている人もいます。

ここで私が考えたことは、日本も何か国語も話せるようになるには、台湾のように小さいころから教育するべきではないかと考えました。現在の日本は、小学生から高校、大学にかけて英語を学習します。しかし、台湾の人々のように幼いころから習い始めると、小学生からは三か国語を習うことができます。そうすると、これからもっとグローバル社会になっていく世界に対応できるのではないかと思います。



延平高級中學では、校長先生をはじめとする管理職員が同席してくださった歓迎セレモニーの後、双方の生徒が準備した「学校紹介」「食」について、英語でプレゼンテーションおよびディスカッションを実施。その後、会場を校舎吹き抜けの中庭ステージに移して「文化交流」。延平の男子生徒による「中国笛」の歓迎演奏を受け、私たちは練習していった「正調よさこい鳴子踊り」を披露。お昼はおいしい台湾料理をご馳走になりながら意見交換や交流を深めた。午後は英会話の授業に参加。特筆すべきはこの授業で、生徒間の交流が楽しみながらできるように工夫されていた。授業の後は学校周辺市街地を散策。部活動への参加。

同校には全生徒のホームステイも受け入れていただき、一般家庭の生活や食についてのリサーチ、同世代間の交流を更に深めることができました。生徒は帰国後も SNS 等で連絡を取り合い、継続した付き合いをさせていただいている。(引率者記載)

【終わりに】(参加生徒)

台湾リサーチに参加しました。海外の1か所に行っただけでも知らないことがたくさんあり、自分が今見ているものの小ささが、今ならすぐわかります。私がまだまだ知らない世界が沢山あると思うと、もっと海外に行ってみたいと思います。西高校がグローバルハイスクールに認定され中身を充実させていくためには、自分自身で他国のことについて学んでいく必要があります。話を聞くだけではわからないことが沢山あります。このことについて気づいただけでも、素晴らしいリサーチになったと思います。これからの探究活動でもリーダー的存在になれるように努めていきたいです。